

「中国の変化は個人、企業の役割大 日中学生・院生の討論で浮き彫りに」(上)

IT(情報技術)、ロボット、ソーシャルメディアが急速に中国社会で発展・普及したのは中央政府の強力な推進政策よりも企業、個人の積極的な活動によるところが大きい、と日中両国の大学生・大学院生たちが見ていることが、16日東京都内で開かれた日中両国の学生・院生による討論で明らかになった。



日中関係学会主催「若者シンポジウム」(拓殖大学で)

この討論会は、日中関係に関わる研究・発表と人的交流を通じて日中両国の相互理解促進を目指す活動が続ける日中関係学会が「若者シンポジウム」として主催した。同学会が日中関係の架け橋になるような論文を表彰する「宮本賞(日中学生懸賞論文)」の2018年度受賞者の中から選ばれた日中の学生・院生が、三つのテーマで討論した。このうち、「日中のIT比較と協力の可能性」というテーマでそれぞれ受賞論文の内容を紹介し、意見を交わしたのは、南開大学外国語学院日本語文学科2年生の劉崢さんと、南京大学外国語学部日本語科博士課程前期2年生の李嫣然さん、さらに日本大学商学部の研究チーム。日本大学のチームは、3年生の結城里菜さんを代表に中国、韓国からの留学生を含む8人からなる。いずれも2018年度の「宮本賞」の受賞者だ(劉崢さんは学部生の部優秀賞、李嫣然さんは大学院生の部優秀賞、日本大学商学部チームは学部生の部特別賞)。

## ロボット産業を日中競争から協調へ

日本大学商学部チームの受賞論文題名は、「ロボットが繋ぐ日中関係～広がる『中国智造』への波～」。2015年に中国政府が打ち出し、現在、米国が露骨な警戒感を示している政策「中国製造 2025」が中国のロボット技術開発に及ぼした影響を論じた論文だ。ローエンドの「中国製造」からスマート化された「中国智造」への転換を実現する国家戦略と、「中国製造 2025」を捉えている。目を引くのは、中国政府の強力な推進策を強調するよりも、むしろ地方政府と企業の積極的な取り組みに注目しているところ。「2020年までにロボット年間生産数を10万台にする」。こうした中央政府の目標に対し、実際には2017年に産業用ロボットの生産数が13万台を突破したという数字などを挙げて、地方政府と企業の果たした大きな役割を評価している。。

「中国では『上に政策あれば下に政策あり』という言葉がネガティブに使われている。しかし、ロボットに関しては逆。政府と企業が好循環を生み出す関係を形成している」。チームの代表を務める結城里菜さんが、中国のロボット産業が急速に発展した理由を解説した。チームの他の日本人学生も「政府がこういう方向でやれというなら、じゃあこっちの方向でやってやろうという企業の意識変化が大きい」と、企業独自の発想、取り組みが政府が意図した工業ロボットよりさらに高度なロボットの開発につながった理由、背景を補足した。

中国の教育については、大学入試に合格するための知識を教えることが優先されていると指摘されることが多い。しかし、日本大学チームは、中国の教育システムが変化していることにも注意を促した。科学技術に関する知識や独創的な発想力を持つ人材を育成するため、STEMシステムと呼ばれる新しい教育システムが導入されている動きだ。STEMとは、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）の頭文字をとった表現で、米国などでもよく使われている。STEM重視の一環として中国では、ロボットに関する大会が盛んで日本からの参加者も増えている。こうした現状も紹介し、ロボット産業分野で今後、日中関係を競争から協調へ転換していくことを提案し、その意義をチームは強調した。



司会者(右端)の質問に答える日本大学商学部研究チームの結城里菜さん(右から2人目)

小岩井忠道 JST 客観日本編集部

関連サイト

日中関係学会ホームページ

<https://www.mmjp.or.jp/nichu-kankei/index.html>

日中関係学会・宮本賞授賞式

[https://www.mmjp.or.jp/nichu-kankei/miyamotoshou/190316\\_award\\_7th\\_sympo\\_notice.pdf](https://www.mmjp.or.jp/nichu-kankei/miyamotoshou/190316_award_7th_sympo_notice.pdf)

日中関係学会「第7回宮本賞(日中学生懸賞論文)」受賞者決定

[https://www.mmjp.or.jp/nichu-kankei/miyamotoshou/1812\\_award\\_7th\\_result.pdf](https://www.mmjp.or.jp/nichu-kankei/miyamotoshou/1812_award_7th_result.pdf)

関連記事

第126回 CRCC 研究会「中国のイノベーション動向と社会の変化」(2019年3月)

月 6 日開催) リポート「異質な企業層がイノベーション持続 梶谷懐氏が中国の活力解説」

[https://spc.jst.go.jp/event/crc\\_study/study-126.html](https://spc.jst.go.jp/event/crc_study/study-126.html)

2018 年 07 月 12 日 SPC 取材リポート「中国の活力を日本の活力に 通商白書が経済変化詳述」

2018 年 05 月 24 日 SPC 取材リポート「中国向けロボット輸出急増 前年比 49.0%増の過去最高額に」

2018 年 05 月 22 日 SPC 取材リポート「民営企業発展の一因は北京との距離 中国人パネリスト指摘」

第 122 回 CRCC 研究会「中国はなぜ成長し、どこに向かうか、そして日本の課題を読む」(2018 年 11 月 19 日開催) リポート「中国の変化を信じよ 和中清氏が日本企業に提言」

[https://spc.jst.go.jp/event/crc\\_study/study-122.html](https://spc.jst.go.jp/event/crc_study/study-122.html)

2017 年 04 月 21 日 SPC 取材リポート「中国ボトムアップ型の強みも 研究開発戦略センター報告書」